

巻頭言

「新型コロナウイルスと今年の読書計画」

理事長 新谷友良

明けましておめでとうございます。去年の巻頭言で「有効な治療薬の開発、ワクチンの普及、集団免疫の獲得といったキーワードに曙光を探す新年」とご挨拶させていただきました。今年は「コロナ収束の道筋も見えて…」と書くつもりでいましたが、「オミクロン」という聞きなれない言葉が、前に向かっていた気持ちに冷水をかける残念な新年となりました。

今年も家にいることが多い1年かもしれないと思い、使っている机の前の書棚を年末に整理しました。そして、雑然と置かれている本の中から、昔読んだ本、読みかけで放置している本、買ったまま1ページも読んでいない本を10冊を選び、書棚の一番目立つところに並べました。1冊を1カ月で読む見当で選んだので、全部400ページ前後の本です。その結果、昔読んだ本が7冊、読みかけが3冊、全く手を付けていない本にはやはり食指が動かずゼロでした。昔読んだ本が多くなったのは、一度読んだ本の世界にもう一度浸りたいという「ふるさとへ廻る六部は気の弱り」と似た気持ちがそうさせるのかもしれませんが。

本を読むには「三読法」という読解方法があるそうです。初めに通読をし、次に精読をし、そして味読という三つの段階を経過して終わる読み方（通読→精読→味読）をいうのだそうです。この方法に従えば、私の読み方はほとんどが通読、稀に精読、味読はほとんどありません。我流読書法に改善を図ろうと、書棚に並べた10冊相手に「三読法」の実行を今年の目標としました。昔読んだ7冊は「通読」は終わったとして、「精読」を今年の目標にします。読みかけ3冊は「通読」を終えることが目標です。そうして、1冊か2冊は「読者としての体験にもとづき、全人格的に味わう」とされる「味読」に進めればと計画しています。

「通読」の候補は、東京学芸大学の江川泰一郎先生が書いた「英文法解説」（金子書房）と日本聖書協会刊の「新約聖書」、精読の候補は「利己的な遺伝子」（紀伊国屋書店）を選びました。この本は新型コロナウイルス感染をきっかけに早く読了しないとイケない1冊と前から気に掛かっています。「味読」候補は？ 残念ながら今のところなし。「全人格的に味わう」といった読書経験がないので、「この1冊」が選べません。

「味読」を「気楽に活字を味わう」と勝手に誤解して、当分はKindle本を濫読することにします。